

生命と権利を守る！

国労水戸

国労水戸地方本部
 水戸市中央1-1-11
 ENYビル2F
 029-221-4008
 発行責任者 堀 正人
 編集責任者 坂下 司

3・30事故を

風化させず

3月30日、地本会議室において生命と権利を守る！3・30集会を2年ぶりに人数を制限し15名の参加者で開催した。

黒澤執行委員の司会で、黙とうに始まり、各職協から報告、まとめ、アピールを採択し集会は閉会した。

大賀副委員長から、事故から28年が経過し、風化させない取り組みを続けようとして主催挨拶した。

運転協議会から、検修外注化が実施され8年が経過し、職場ではエルダー社員が多く、会社はこの10年間で委託化を完成させたい目論みは破綻しつつある。

一方でp社員は多能的業務(運転・仕業・誘導業務)が遂行され、重大事故防止の観点から適切な要員確保が必要である。

水戸線のワンマン運転が実施され、交渉ではホーム上の安全確保、車掌が行っているルールについての安

一人で悩まず
 国労へ相談。
 みんなで楽しく
 がんばろう



全確認について検証してきた。

運輸協議会から、駅窓口廃止、窓口時間短縮、無人化と要員合理化の提案を受けてきた。

利用者のサービス低下、安全確保について交渉を行ってきたが会社は慣れれば大丈夫であると良い回答はないのが現状。

水戸線ワンマン化におい

では、12項目の要求を掲げ「安全・安定輸送」確保を議論をした。

特に体の不自由なお客様の案内、駅進入・進出時の安全確認方、僅少間合いの列車からの接続のあり方を提起した。後日回答となり、なかなか改善とはならないが安全を無視することは出来ない。

工務協議会から、水戸伝承館で若い社員と話して、3・30事故は何故起きたのか自分には考えられない。ルールを守らない人が悪いとの意見。

年度末での作業で工期に間に合わせようとしたなど、その時の状況もある。

事故のたびに対策が立てられ、安全マネージメントによって元請け・JRが現場を把握し、下請け会社を安全サポートしていくとされているが、事故事象は現在も続いている。

合理化、効率化、組合差別、働き続ける労働条件を奪う会社の本質や労働組合の立場で主張していく。職



場から声をあげ労働者の生命と安全を守る。

赤沼書記長から、水戸線ワンマン運転は今後も労働条件、安全面について交渉、検証を行っていく。

関係する市長、議会要請を行い、「趣旨採択」、1市で「議会採択」を決議した。今後どうしていくのか議論していく。

3・30事故から28年が経過し、職場実態を見たとき周りに命と権利の大切さを広げ継承していこうとまとめた。